

III 具体的な実践

《仮説 1：教科体育の充実》

1 【視点 1】意図的・計画的な教師の直接的指導の在り方

【基本的な考え方】

教師から児童に学習内容にかかわる情報を伝える行動ではあるが、教師側からの一方的な伝達（※いわゆる直接指導）ではなく、課題解決学習の中の児童とかかわり合う場面（双方向からの情報交流）で、児童から運動のこつやポイントを引き出し、全体で共有していく指導である。

【手順】

① 身に付けさせたい学習内容の明確化

小学校学習指導要領解説体育編の例示から、当該学年で指導する技能や技能にかかわる思考・判断を整理し、まとめる。

② 直接的指導のポイントの整理と指導計画の作成

身に付けさせたい学習内容と児童の実態から、本単元で指導する「技能のこつやポイント」（「技能の視点」）等をより具体的に書き出し、単元の中で「いつ」「何を」「どのように」指導するのかを考えて、計画を立てる。

③ 「イメージ言葉」の予想

直接的指導場面で、「技能のこつやポイント」（「技能の視点」）等について、共有する際の言葉を、児童にとってイメージしやすい言葉で考えておく。

④ 学習計画と評価計画の作成

⑤ 1 単位時間の中での直接的指導を行う場面の設定と実践

⑥ 児童の実態を踏まえ、次時の直接的指導についての再検討・修正

～第 6 学年「仲間とつながり、技をつなげるマット運動」（B 器械運動 ア マット運動）～

【手順①】 身に付けさせたい学習内容の明確化

小学校学習指導要領解説をもとに「この単元で、児童に何を身に付けさせるか」を整理し、まとめていった。

目標	(1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その技ができるようにする。(技能) ア マット運動では、基本的な回転技や倒立技を安定して行うとともに、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりをすること。
回転技の例示	○大きな前転（発展技：倒立前転、跳び前転） ○開脚後転（発展技：伸膝後転）
倒立技の例示	○補助倒立（発展技：倒立） ○側方倒立回転（発展技：ロンダート）
技の組み合わせ方	上に示した技や既にできる技を選び、それらにバランスやジャンプなどを加えて組み合わせること。

指導内容の明確化を図るため、2 学年にわたって指導する内容について、5 年生でどこまで指導するのかを明確にし、身に付けさせたい学習内容を整理した。

5 年生の指導内容(計画)

- 〈基本的な技の学習〉
- 安定した前転
- 開脚前転
- 安定した後転
- 安定した壁倒立
- 頭倒立
- ブリッジ
- 〈発展技の学習〉
- 倒立ブリッジ
- 安定した横跳び越し



6 年生の指導内容(計画)

- 〈基本的な技の学習〉
- 大きな前転
- 開脚後転
- 補助倒立
- 側方倒立回転
- 〈発展技の学習〉
- 倒立前転、跳び前転
- 伸膝後転
- 倒立
- ロンダート

【手順②③】 直接的指導ポイントの整理と、イメージ言葉の予想

身に付けさせたい学習内容と児童の実態から、本単元で指導する「技能のこつやポイント」（マット運動領域の「技能の視点」）等をより具体的に書き出し、単元の中で「いつ」「何を」指導するのかを考えて、計画を立てた。直接的指導場面で、「技能のこつやポイント」等について、共有する際の言葉を、児童にとってイメージしやすい言葉で考えた。

時	直接的指導のポイント		予想されるイメージ言葉
1	共通	・既習した技のこつとポイントでおこなうこと。	
2	補助倒立	・両手で着手と同時に足を振り上げ、背中をそらし、腕・肩・脚が一直線になるようにして倒立すること 【技-g】	あご・前目・三角
3	大きな前転	・両手で着手し、腰を大きく開き、膝を伸ばし、後頭部を着けて回転し、しゃがみ立ちになること 【技-b】	腰・上げ後頭部背中かかと
4	開脚後転	・しゃがみ立ちからお尻からマットに着けて回り、足を大きく開き両手でマットを押して開脚立ちすること 【技-e】	うさ耳・手パー両手トンツ
5 (本時)	側方倒立回転	・手手足足の順で、振り上げ足を上方向に大きく振り上げて回転し、着地足が手の方向になるように着地すること 【技-k】	手手足足膝ピン
6	組み合わせ	・技をつなぐ方法を知り、自分の力に合った技を組み合わせること【思-b】	
7			

【手順④】 学習計画と評価計画の作成

直接的指導のポイントを整理した上で、学習計画と評価計画を作成した。単元全体を通して「より大きく美しい動きを身に付けること」に指導の重点を置き、第1時で倒立についての直接的指導を計画した上で、第5時に側方倒立回転を指導することで技能の習得を図っていた。評価に関しては1単位時間に評価する項目を明確にしなが、毎時間確実な見取りができるよう計画を立てた。

評価基準	運動への関心・意欲・態度		運動についての思考・判断		運動の技能		
	運動に楽しんで取り組み、約束を守り助けて運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりしようとする。		自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫している。		基本的な回転技や倒立技を安定して行うとともに、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすることができる。		
時 間	1	2	3	4	5 (本時)	6	7
10分	・あいさつ。 オリエンテーション ・用具や場の準備の仕方を知る。	準備 あいさつ スイッチオンタイム での確認				あての確認	
20分	・スイッチオンタイムの行い方を知る。 ・試しの運動を行う。 ・ふり返り。 ・整理運動。 ・あいさつ、後片付け。	技のこつやポイントを見つけて、より大きく美しい動きを身に付けよう				自分の力に合った場で練習しよう	
30分		ベーシックタイム (グループ学習) ・チームごとに運動し、①大きな前転 ②開脚後転 ③補助倒立 ④側方倒立回転について、それぞれのこつやポイントを見つける。				チャレンジタイム (課題別学習) ・自分の力に合った練習方法や練習の場を選んで運動し、個人の課題解決を図る。	
40分		一斉の道徳的指導 ・次の場に移動し、共有した動きのこつやポイントについてお互いに確認しながら、課題を見つたり解決したりするために練習する。				組み合わせタイム (グループ学習) ・同じ技を繰り返したり、技を組み合わせたりして演習する活動に取り組み。	
準備物	単元計画表 場の図 発見ボード 学習カード 音楽 ビブス TVモニター タブレット マット ゴム紐 踏み切り板 ケンステップ とび箱						
直接的指導のポイント	(技:①) 両手パーでの着手と同時に足を振り上げ、背中をそらし、腕・肩・脚が一直線になるようにして倒立することができる。	(技:②) 両手パーで着手し、腰を大きく開き、膝を伸ばし、後頭部を着けて回転し、しゃがみ立ちになることができる。	(技:③) しゃがみ立ちからお尻からマットに着けて回り、足を大きく開き両手でマットを押して開脚立ちすることができる。	(技:④) 手手足足の順で、振り上げ足を上方向に大きく振り上げて回転し、着地足が手の方向になるように着地することができる。	(技: ) これまでの指導の中から特に課題だと思われる点を中心に行う。	(技: ) これまでの指導の中から特に課題だと思われる点を中心に行う。	
評価計画	態度	②	①				
	思・判		①			②	②
	技能		①	②	③	④	①②③④
評価基準	①楽しんで運動に取り組み、約束を守り、友達と助け合って技の練習をしようとしている。 ②器械・器具の安全に気を配ったり、準備や片付けて自分の役割を果たそうとしていたりしている。 (行動観察・発言)	①課題の解決の仕方を知り、自分の課題に応じた練習の場や段階を選んでいる。 ②技をつなぐ方法を知り、自分の力に合った技を組み合わせている。 (行動観察・学習カード・発言)	①両手パーでの着手と同時に足を振り上げ、背中をそらし、腕・肩・脚が一直線になるようにして倒立することができる。 ②両手パーで着手し、腰を大きく開き、膝を伸ばし、後頭部を着けて回転し、しゃがみ立ちになることができる。 ③しゃがみ立ちからお尻からマットに着けて回り、足を大きく開き両手でマットを押して開脚立ちすることができる。 ④手手足足の順で、振り上げ足を上方向に大きく振り上げて回転し、着地足が手の方向になるように着地することができる。 (行動観察・学習カード・発言)				

【手順⑤】 1 単位時間の中での直接的指導を行う場面の設定と実践（5 時間目）

過程	学 習 活 動	教師の指導・支援
導 入	1 あいさつ・準備運動 2 スイッチオンタイム 3 場や用具の準備	「学び方」について知らせる。 ～安全面・楽しく交流すること・めあての確認など～
	4 自分のめあての確認	
展 開	5 学習課題をつかむ	側方倒立回転のこつやポイントを見つけ、大きく美しく回ることができる。
	6 グループ毎に練習する。  ★直接的指導 →	課題解決の情報（技能のこつ・ポイント等）を、児童から引き出し、共有化する。 ※児童がつまづいている課題について、授業の終末で解決の情報を伝えるのではなく、展開の途中で情報を共有する場面を設定した。
	・側方倒立回転をしている児童の動画をみんなで見ると。 ・「マットに着く手や姿勢」という見る視点を与え、「技能のこつやポイント」を、見ていた児童から引き出し、共有化する。	手の着き方や姿勢はどうなっていますか？  気付いたことを友だちと話し合いましたよ。  あごが前に出ているよ。  ひざがピンと伸びているね。  イメージ言葉「ひざピンッ」「あご前」
7 次の場へ移動し練習する。		
整 理	8 ふり回りタイム 9 整理運動 10 後片付け	友だちからの良いアドバイスを紹介したり、友だちの困り感を一緒に解決したりして学びを共有する。

本時の直接的指導場面では、学習のめあてを「側方倒立回転のこつやポイントを見つけよう」と児童に提示した。初めの練習時間でグループごとに練習した後、大きく美しく側方倒立回転ができていた児童の動画を使い、こつやポイントを確認した。「マットに着く手や姿勢」に焦点を当てることで、見ていた児童からは、「大きく美しく見せるために『ひざをピンと伸ばし』て、『あごを前』に出している。」という気付きが出てきた。「ひざピンッ」「あご前」というイメージ言葉を活用することで、こつやポイントの共有化を図っていった。

【手順⑥】 児童の「実態」を踏まえた、次時の直接的指導についての再検討・修正

授業をふり回り、現時点での児童の実態を踏まえて、次時の直接的指導について再検討・修正を行っていった。本実践では次時も学習計画通りの内容で指導を行った。